

2016年
11月8日
火曜日

田 禾 教授（人文科学、中国語学） 苗字が異なる家族

昨年度から中国の人口政策には一つ大きな変化がありました。それは「一人子政策」の緩和です。一家族一人子のみ産むことが許可されることから二番目の子を産んでほしいとの変化です。徹底的に何人の子を産んでも良いとまではまだですが、政策の緩めより、人口基数がもとと大きい中国にとって、人口増加の速さはとても懸念されるという意見もあります。まだ実施されて一年ばかりですので、人口の増加はどうなるのかは分かりませんが、それに関わるもう一つの議論が始まりました。二番目の子の苗字という問題です。日本と違って、中国人の女性は結婚しても苗字は変わりません。生まれた子供の苗字は普通父親と同じにしますが、『婚姻法』によると、どちらも自由です。つまり、赤ちゃんの苗字は母親と同じにしても法律上で

は何の問題もないです。「一人子政策」実施以来、およそ40年経ちました。現在生育年齢の殆どの親たちは一人子です。一人子と一人子の夫婦の間に生まれた子供は最初の子は父親の苗字にしたら、二番目の子は母親のほうにしてもいいのではないかと考える人もだんだん多くなりました。しかし、賛成する父親は少ないです。昔、中国人の女性は男尊女卑のせいで、苗字はありますが、下の名前がなく、「〃氏」と呼ばれ、結婚してから、旦那さんの苗字を加えて、例えば王さんの娘が張さんの嫁になったら「張王氏」と呼ばれることです。1950年代以来、『婚姻法』の実施のおかげで、男女平等で、どの場合でも、夫婦別姓です。家族に母親だけ苗字が違うのは普通ですが、子供も苗字が母親と同じで、父親が別苗字の家族は再婚など

特別な理由があると中国社会で認識されています。この理由で、二番目の子の苗字を母親側にすることは勇気が必要かもしれません。安徽省のある地域では、赤ちゃんの苗字を母親のほうにすることで地方政府から「奨励金」をもらえたとの記事も見ました。その目的は一人子である母親の家族の苗字の存続も応援して、更に男女平等の観念を深めるということです。大都市では女性は確かに給料や昇進のチャンスなどで男性と同じ政策がありますが、やはり出産という理由で仕事中断する場合もあり、育児と共に仕事すると仕事に専念できない可能性も高いので、実際には収入の面で男性より低い女性が多いというのも事実です。ですの

で、まだまだ男女平等の実現はしていない社会では、赤ちゃんの苗字に対しては母親側の発言はあまり重視されていないかもしれません。子供